

宮ヶ瀬湖周辺地域活性化に向けた宮ヶ瀬湖湖面利用（フィッシング）の

実現に係るサウンディング型市場調査の結果概要を公表します

宮ヶ瀬湖における日本で最も環境に配慮した湖面利用（フィッシング）の実現性の検討に当たり、専門的な知見を有する民間企業・団体から広く意見・提案を求めるサウンディング型市場調査を実施しましたので、その結果を公表します。

1 実施経過

内 容	実 施 時 期
対話実施の公表	令和5年2月22日（水）
事前説明会の開催	令和5年3月23日（木） 【参加：17団体】
事前対話の開催	令和5年3月23日（木）事前説明会終了後 【参加：10団体】
対話の実施	令和5年5月18日（木）、24日（水） 【参加：12団体】

2 対話内容

- 宮ヶ瀬湖湖面利用について（湖面利用の可能性・集客見込み・運営方針）
- 実施手法について（実現のための事業イメージ・施設等の整備・魚族放流の必要性）
- 事業運営について（採算性・運営する事業主体）
- 課題・問題点について（日本で最も環境に配慮した湖面利用とするためのアイデア）
- その他、各団体が得意とする分野での提案

3 結果概要

別紙のとおり

4 今後の予定

今回のサウンディング型市場調査の結果、改めて宮ヶ瀬湖の湖面利用（フィッシング）を求める声が多いことが確認できました。

しかしながら、湖面利用を行う実際の場所や、湖面利用を行うための係船設備、栈橋の整備費用など初期費用に係る提案が少なく、採算性担保のための検討・整理が必要です。

今後につきましては、上記検討のほか、今回いただいた様々な提案を基に、前例のない環境に配慮した新たなルールづくりを行い、実現に向けて検討を進めてまいります。

お問い合わせ
観光・シティプロモーション課
電話 042-769-8236（直通）

結果概要に係る各団体からの提案等について

団 体	提 案 等
A者	<ul style="list-style-type: none"> ・アクセスが良く、関東を中心に広域からの集客が見込まれ、市場規模は大きい。ダムができた当初から、期待されていた湖である。 ・遊漁料やポート代が高くても釣り人は来る。日本で一番注目されていると言っても過言ではない。 ・コクチバスを釣りの対象と認めるかが大きい。野尻湖や檜原湖といった公に認めている湖は事例としてはあるが、リリース禁止にすると下火になっていく。 ・桟橋や設備などを含めた箱ものは必要である。 ・既存の淡水魚の放流は必要である。 ・運営に当たっては、知識のない民間事業者より、造詣が深い企業が望ましい。 ・ワカサギ釣りもレジャーとして需要があり、安定した収入が確保できるが、10月末から2月初旬がピークであり、設定されている9～12月だけでは短い。 ・遠くから来る釣り人は、周辺に宿泊して土産を購入して帰る。周辺の地域活性化にもつながる。 ・釣り人の朝は早く、車の音が騒音になったり、ごみが増えるなど周辺住民からの苦情は新規釣り場ではよくある話である。その他、キャンプ場の運営事業者など既存利用団体との共存が重要。
B者	<ul style="list-style-type: none"> ・フィッシングを通じてSDGsを感じられるフィールドの拡大、体験できる場を設けていきたい。 ・携帯アプリ等により、利用者が現在の位置と係船設備までの必要時間が分かるほか、管理者側からは、今どこにいるのかを把握でき、その後のごみ回収など見回り作業を軽減することができる。回収できないごみ等の残置報告も可能。 ・釣った魚の魚種確認や説明、リリースなどその後の処置を案内できる。 ・どの魚がどのあたりで釣れたのかを把握でき、魚種のデータの蓄積により生息の推移を把握できる。 ・ポートや船に付けて、人の落水に反応させることができる。
C者	<ul style="list-style-type: none"> ・環境面、費用面含め持続可能な釣場を継続していくには、実際に釣れる必要があり、釣堀の発想が必要である。 ・宮ヶ瀬湖は都心から1時間で来ることができ、かなりの人が集まると思われるため、放流による維持が必要である。 ・初期投資、放流、環境維持などを賄う収入が必要であるが、釣果が出れば遊漁料やポート代などを高めに設定しても釣り人は来る。 ・金額の設定が低かったり、監視ができていないと釣り人の質が落ちてくる。どれほど手がかけられるのか、誰が担うのかが重要になる。
D者	<ul style="list-style-type: none"> ・集客のメインはワカサギ釣りとし、併用してコクチバスやブルーギルのフィッシングと考えている。 ・ワカサギはドーム船や多目的船で行い、コクチバス等は岸で行う想定である。 ・環境に配慮した船で実現した場合と小型エンジン搭載の船で実現した場合の比較について、環境に配慮したほうが必要経費は大きくなっていく。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ドーム船等は太陽光を利用して運営することとなるが、桟橋の設置に合わせて、一部に屋根を設けて充電機能を持たせるなど大掛かりな設備が必要となる。 ・ワカサギを周辺店舗で甘露煮や天ぷらにして販売するなど、周辺店舗と共存し、地域活性化につながる。
E者	<ul style="list-style-type: none"> ・エコロジーに配慮した「自然や地域と共生する夢の釣り場」を創造することで、宮ヶ瀬湖周辺地域の活力の源とすることができると感じている。 ・ロケーションが良く、どのような魚がどのように釣れるのか、大きな魅力がある。 ・釣り場として一気に開放するのではなく、段階を踏んだ利用とルール作りを遵守することで、長期的に安定した運営が可能となる。魚の減少や周辺の環境負荷の上昇を避けるためにも、段階的に利用客を増やしていくことで釣り場としても価値が向上し、結果としてより多くの釣り人に広く利用頂けるようになると思う。 ・環境配慮の観点からは、手漕ぎのローボートだけでなく、カヤックフィッシングを提案する。安全面からライフジャケットの着用も徹底する。 ・放流は在来種であるワカサギ、サクラマスを想定している。 ・インフラは既存のものを生かすことを基本とし、例えば鳥居原ふれあいの館の東側のスロープに桟橋をかけて使用するなどで、現在の宮ヶ瀬湖の自然環境の保護に対し十分な配慮に努めたい。 ・フィッシング利用の開始による根拠りや不法投棄の懸念については、釣法にローカルルールを設定し、ごみの持ち帰りなどの自主規制を運営上も徹底することで、水質環境への懸念を払拭する。
F者	<ul style="list-style-type: none"> ・宮ヶ瀬湖は絶えず話題に上がっており、注目度が高い。 ・釣り場の維持に当たり、ライセンス制の導入を提案する。国内では釣りに金がかかるという認識が薄い。釣り場を持続したもとのするためには釣り人がマナーを守ることが必要であり、ライセンスの導入によって、釣り人同士が監視する体制が整う。 ・魚の個体数を維持するため、釣り人からの費用の徴収が不可欠である。 ・釣り人は釣れる湖に行きたいものであり、安定した釣果を得られる管理体制が必要である。 ・冬期に収益を確保するためには、ワカサギ釣りが必須である。ドーム船によるフィールドが用意できれば、ワカサギだけで年間1万人の利用が見込める。 ・環境配慮に当たり、ワームと鉛は禁止とする。ワームは湖底に沈んだものを魚が食べ、消化できず体内に残っている現状が確認されている。鉛は日本では禁止されていないが、アメリカ・カリフォルニア州ではがん・先天異常または他の生殖害を引き起こすことが知られている化学物質から保護することを目的として、使用を州法で禁止している。 ・その他、ごみを出さない活動のほか、釣りによる魚のダメージ軽減から、かえしが無いバーブレスフックの使用などが考えられる。 ・岸釣りを認めると違法駐車が発生し、釣り人の行動範囲が制限しきれない。ボートのみの利用でよい。 ・放流はワカサギのみで、他の魚族は現状必要ないと思う。 ・ワカサギ以外はキャッチ&リリースがよいのではないかと。

	<ul style="list-style-type: none"> ・環境負荷を低減する意識が釣り人に定着するような、新しい釣り場のモデルとして整備できるとよい。
G者	<ul style="list-style-type: none"> ・宮ヶ瀬湖では釣りがいつ頃できるかなど問合せを受けることもあり、話題となっている。ぜひ推進してほしい。 ・交通利便性は芦ノ湖よりいいので、芦ノ湖以上の集客が見込まれる。 ・釣り人が入ると魚が減るため、増殖行為が必要である。 ・水質保全に釣り人が配慮するよう、講習会やライセンス制の導入を提案する。 ・ライセンス制の導入により釣り人の特定ができ、安全管理につながり、GPSで位置を把握できるフィッシュパスもある。 ・放流はワカサギやヤマメが必要と考える。ヤマメは成長するとサクラマスになり、釣り人が多い魚種である。 ・ワカサギ釣りは非常に人気であり、シーズンが始まると1～2か月でシーズン中の土日の予約が埋まってしまう。 ・補助金の利用などにより、初期投資等の負担軽減を図れるとよい。
H者	<ul style="list-style-type: none"> ・雨や雪、寒い状況下は釣り人は動かなく、特に2月は釣り人がいないが、ワカサギ釣りにおけるドーム船は稼働できる。 ・大まかな見積りであるが、自走式のドーム船は1,500～2,000万円、固定式は300～400万円で整備できる。 ・近隣の湖におけるドーム船の運航状況や稼働率を想定すると、固定式であれば1～2年で採算がとれると考えている。 ・棧橋の付けれる箇所は1箇所あればいい。 ・釣り人が入ればごみが出るが、儲けがあれば環境保全やトイレの整備・スタッフの質の確保に充てることができる。 ・全国的に釣り場が減っている状況がある。コロナバブルにより釣具が売れたが、マナーを知らない人が参入したことによるマナーの低下で、閉鎖された釣り場もある。 ・釣りにお金を払う人ほどマナーが良い。決して安く設定する必要はない。きれいなトイレ、感じのよいスタッフ、よいサービスであれば、釣り人は来る。ブランディング化を図るべきである。 ・儲けがあれば他にも、観光客のみを対象としたインストラクター付の釣りのアクティビティなども実施できると思う。
I者	<ul style="list-style-type: none"> ・宮ヶ瀬湖は都心から近く、一番人が集まっている湖だと承知している。 ・施設やアクティビティ、街路灯など関連するすべてを再生可能エネルギーで供給することを提案する。 ・一時、山岳地帯や森林を崩してソーラーパネルの設置が流行したが、現在は土石流の発生に影響するなど印象が悪く、2010年頃から湖上に設置するフロート型の事例がある。太陽光パネルは熱を持つと発電量が減るため、湖上の場合には水で冷やされることから、発電量を維持できるメリットがある。また、フロート型は、施工が簡単であるとともに、湖面の上下にも対応する。 ・一軒家の電気量100件分程度の電力4～500kwの発電に必要なソーラーパネルの設置には1～2億円程度かかる。

	<ul style="list-style-type: none"> ・JBプロに宮ヶ瀬湖に関するコメントをいただいた。とても釣りがしやすそうで、ボートは湖の大きさから電動が必要と思う。 ・カヌーとの共存はルール設定により可能である。 ・ラージマウスバスが釣れることで集客が見込まれるが、魚が減ってしまうため、放流や釣り禁止時期の設定が必要。また、バス釣りだけでは採算が取れず、トーナメントなど大会の開催が必要と考える。
J者	<ul style="list-style-type: none"> ・宮ヶ瀬湖はブラックバスなど人気魚種を軸に以前から魚種が多いと言われ、ワカサギ・トラウト類も含め釣り客を導引できる可能性があり、コクチバスの魚種認定がされれば関東唯一の湖として、安定した集客が見込まれる可能性がある。 ・安定的な釣果やフィールドとしての持続力が必要で、釣り場を一気に開放すると短命に終わる。そのため、利用者の上限設定をしても良いと考える。 ・環境配慮については、ワーム・鉛の使用禁止を挙げる。ワームは湖底に残ったものをマスが食べている状況にあり、鉛は日本では禁止されていないが、アメリカのカリフォルニア州では禁止されている。その他、釣り人が率先して清掃活動を行うことが必要。 ・遊漁券に周辺地域の飲食・宿泊施設等を安く使用できる特典を付ければ、周辺の活性化につながる。 ・釣り場を開放すると最初はレジャーとなるが、徐々に釣果が出なくなっていく。バス釣りを行う人にとっては資源としての意識があるため、バスを廃棄する釣り場へは行きづらい。 ・生分解性ルアーの開発が進んでいるが、動きが悪く耐久性が無い。水に入れて時間が経つと固まっていく。最終的には解けるが、耐久性がないため逆に撒き散らす可能性がある。 ・遊漁券やライセンスの導入は考えられ、金額が高いほどマナーが良い。ただ、金額的には高くても3~5千円くらいで、1万円だと肌感覚で2割程度の集客になると思われる。ただ、海外に釣りに行くことと比べれば十分に安い。
K者	<ul style="list-style-type: none"> ・宮ヶ瀬湖の話題は出ており期待値が高い。キャパシティに合ったボートの台数により集客や採算に影響がある。 ・春から秋はバス釣り、冬はワカサギ釣りとするれば、通年の釣り客が見込める。また、フィッシュライセンスを設けてもよい。 ・関東圏は釣り人は多いが釣り場が足りておらず、釣果が伴わなくなっている。 ・バス釣り自体が釣れないものとして確立してきているように感じる。そのため、海釣りや釣り堀など釣れる釣りに人が移っており、釣具屋の売場構成も変わってきているが、魚種としてはブラックバス1種であり、種類単位では圧倒的に人気である。 ・釣り人が入ればごみが出るが、琵琶湖では釣り人側が清掃活動を行っており、回収するごみは生活ごみが大半で、釣り具のごみは少ないと聞いている。 ・釣り人の朝は早く、3~4時頃から動いているため、エンジン音など騒音問題で地域住民との折り合いが必要となる。 ・遊漁券は1,000~2,000円、ボート代は4,000円程度が相場と考えており、1日1万円では高く、人は集まらないと思う。

L者	<ul style="list-style-type: none">・採算はやり方次第であるが、感覚的にポテンシャルは高いと感じている。・釣り場を増やす取り組みを行っており、新たな釣り場を開放するノウハウを持っている。・新たな釣り場では新たなルールを作ることができ、釣り場の雰囲気づくりが大事である。ルールを守れない人は釣りに来なくても良く、周りの相場観に合わせる必要もない。・釣り観光は親和性が高い。マナーを守って釣りをすることがスマートであるというような雰囲気づくりが必要。
----	--